



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2015年 No.4

(通巻41号)

9月20日発行



今年は、例年になく夏の終わりが早かったようで、朝夕の風にはまさに秋を感じます。
皆様におかれましてはお元気でお過ごしでしょうか。
今号は、秋のイベントのご案内を中心にお届けいたします。
是非、お誘い合わせてお出でください。

活 動 報 告

*アフリカ日比谷フェスティバル

<http://hibiyafesafrica.web.fc2.com/>

日時：2015年7月11日（土）12日（日） 10：00～19：00（最終日は17：30まで）

会場：日比谷公園

主催：アフリカヘリテイジコミティー <http://africah.web.fc2.com/>

料理や雑貨等の販売をはじめ、ライブ、太鼓ワークショップ、衣装レンタル、ヘアスタイル体験、ゲームやクイズなど盛りだくさんとなったフェスティバル。日比谷公園の大噴水をぐるりと囲んでブースが建ち並び、レンタルしたアフリカンファッションに身を包んだ人々や在日アフリカンの来場者も多く、アフリカー色となりました。バオバブの会は、フリーマーケットスタイルでシートにケベサック（セネガルの女性グループ製作のバッグやポーチ）と小物を並べて販売。色鮮やかなケベサックは晴天の太陽が照りつける露店でとても映え、ひととき目立つ存在に。両日とも大繁盛となりました。

*平和・国際フェスタ ハートカフェ 2015

http://www.palsystem-kanagawa.coop/press/2015/20150626_1.html

日時：2015年7月25日（土） 10：30～15：00

会場：ランドマークホール（ランドマークプラザ 5階）

主催：パルシステム神奈川ゆめコープ地域活動支援課

平和・国際交流活動を行なっている団体が参加したこのイベントには、バオバブの会はアフリカルチャーさんと共同で出展。おなじみケベサック、絵本や児童書、小物を販売しました。パルシス

テム主催のためかフェアトレードに関心の高い来場者も多く、ケベサックに関してとくに多くの質問をいただきました。ステージでは落合恵子氏の講演、アフリカルチャーによるセネガル音楽とダンス、ネパール伝統ダンスの公演も行なわれました。

*ゴスペルスクエア 7周年「GQ FESTIVAL！」

<http://ameblo.jp/gospel-square/entry-12057667590.html>

日時：2015年8月2日（日）開場 15：00 開演 15：30

会場：渋谷区文化総合センター大和田内 さくらホール

ゴスペルスタジオを全国で展開するNGOゴスペル広場の本拠地ゴスペルスクエア（GQ）が、7周年を記念して、初の単独コンサートを開催しました。大人数の迫力のハーモニーに、本場の黒人シンガー5人の歌声、観客も共に歌うという、まさに会場全体がゴスペルに包まれる素晴らしいコンサートとなりました。

NGOゴスペル広場は「ゴスペル×国際協力 一楽しい時間のために使ったお金が、別の場所で大きな力になる」を掲げ、様々な国際協力を行っています。バオバブの会は2009年以来ご支援をいただいておりますが、今回も支援団体のひとつとして参加し、ステージでの活動報告と、ロビーにてケベサック、絵本、小物などの販売を行いました。また、後日、コンサートの収益と会場での募金によるご寄附をいただきました。

*みなとグループセミナー 「セネガルにみるイスラムの教育と文化」

日時：2015年7月13日（月） 13：30～15：30

会場：横浜市神奈川区民センターかなつくホール内音楽ホール

主催：国際交流ボランティア 「みなと」グループ

みなとグループが開催するセミナーに、ディウフ会長が講師として招かれました。平日の昼間にもかかわらず50人余りも集まった参加者を前に、イスラムの歴史と教義と平和思想、ジハード（聖戦）の真の意味、セネガルのイスラムの寛容性、セネガルにおけるイスラム教育、バオバブの会の活動等々を、図表や動画を使って解説しました。質疑応答も盛り上がり、たいへん充実したセミナーとなりました。

今後のイベント

** 「よこはま国際フェスタ2015」 ** <http://yokohama-c-festa.org/>

日時：2015年10月10日（土）・11日（日）10：30～16：00 小雨決行・荒天中止

会場：象の鼻パーク

みなとみらい線 日本大通り駅より徒歩5分 JR・横浜市営地下鉄 関内駅より徒歩15分

主催：よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム運営委員会よこはま国際フェスタ2015プロジェクト



国際協力や在住外国人支援に取り組む諸団体が参加し、食、モノ、ライブやパフォーマンスを通して文化交流を行なう恒例のフェスティバルです。

バオバブの会は“世界のフードゾーン”に出展します（日本大通り側から入って右側の一角。ブース番号はR05）。

メニューは、マーフェ（ピーナッツソースのビーフシチュー）とヤーサ（レモンの酸味がきいたチキンシチュー）のサンドイッチ、揚げたてのベニエ（西アフリカのドーナツ）、アターヤ（セネガルのミントティー）を予定しています。また、ケバサックやアフリカ関連絵本・児童書、小物なども販売します。

** バオバブの会主催イベント **

「バオバブの会チャリティーライブ2015」 ～セネガルの子どもたちに教育を～

バオバブの会として初めての音楽イベントを行います。

アフリカの音楽・文化を一緒に楽しみ、歌い、踊りましょう!! ふるってご参加ください♪

日時：2015年11月29日(日) 開場14:00 開演14:30(～16:00)

会場：アフリカンレストラン「カラバッシュ」 <http://www.calabash.co.jp/>

JR「浜松町」南口S5階段 金杉橋方向出口（S5階段）より徒歩90秒

都営浅草線&大江戸線「大門」駅B2出口より徒歩4分

都営三田線「芝公園」A3出口より徒歩6分

入場料: 前売り・メール予約 2,500円 当日 3,000円

1ドリンク付き。追加ドリンクは500円 (食事の販売はありません)

予約・お問い合わせ : info@the-baobab.org

出演者:

♥ Afro Begue Band (アフロベゲバンド)

セネガル人ジェンベマスター、オマール・ゲンデファル率いるアフロミュージックバンド。オマールはサバル、ジェンベ、タマ等のアフリカの太鼓のマルチ奏者で、伝承音楽家としてはセネガル国立舞踊団等で活躍。ポピュラー音楽でも数々のライブやレコーディングに参加。

伝統とオリジナルが融合したAfro Begue Bandの音楽をお楽しみください。

♥ Doomu Woi (ドームウェイ)

アフリカンドラムとゴスペルを愛する仲間が集結したアフリカンゴスペルユニット。

Doomu Woi (ドームウェイ)はウォロフ語(セネガルの代表的な現地語)で「歌の種」という意味です。アフリカンドラムのリズム×ゴスペルのスピリットで、明日の元気の種をお届けします。

★チャリティーグッズの販売

会場では、セネガルの女性たちが作ったカラフルでかわいいアフリカンプリント布のバッグやポーチ、アフリカ関連の絵本等を販売します。

地図:カラバッシュホームページより

〒105-0013 東京都港区浜松町2-10-1 浜松町ビルB1

tel:03-3433-0884



♥♥♥ ちらしはこちら →

https://www.dropbox.com/s/zicx8o4ibhhuiv/baobao_live_flier.pdf?dl=0

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★

第17回 母の苦勞が息子の未来をつくる

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

(訳・文責 水野)

私たちは、通常、ひとつのテーマを選び、それに関わるアフリカのことわざを集めてこの記事を作っています。ですが、今回は、あるひとつの言葉をとおして、セネガル社会の発展の一面についてお話ししたいと思います。この言葉はことわざではありませんが、セネガル人が、一般的な家庭内における女性、とりわけ母としての役割と責任、そして、子どもたちの未来への影響についてどう考えているかをよく表しています。時代が変わり、それと共に様々なものごとに対する人々の考えも変わってきましたが、社会の中での女性の役割についてはどうなのでしょう？

週に何回か、私はセネガルのラジオを聴き、テレビを見ます。本当はもっとそれらに触れたほうがいいのかもかもしれません。人間は生きている環境によって変わると言われていますが、確かに、私も、日本の社会の中で大きく変わりました。ですから、これらセネガルのメディアに触れることで、25年以上、故国を離れて暮らす間に忘れがちなセネガル人の基本的な価値観を思い出すことができます。また、セネガルとアフリカ大陸の刻々と移り変わる現実を知ることができ、それらが、私の中のたくさんの思い出に新たな息吹を与えてくれます。

それは1週間前のことでした。セネガルでは、現在、たくさんのラジオチャンネルが互いにしのぎを削っているのですが、たまたまそのひとつに合わせたとき、ひとりの女性の声が聞こえてきました。グリオと思われる彼女は、誰かを称賛しているようでした。私は、これはどうせ「木の下注1の猿！」と思い、すぐにチャンネルを変えました。つまらないことで貴重な時間を失いたくなかったのもっと有益な番組を探すことにしたのです。しかし、この数秒間に、久しく聞くことのなかったひとつの言葉が私の耳をとらえました。グリオの女性はこう言ったのです。「… けれども、これは驚くことではありません。＜母の苦勞が息子の未来をつくる＞と言うじゃありませんか。私は彼の母親を良く知っています。ですから、あの母にしてこの子あり…」

ご説明しましょう。セネガルでは、伝統的に、もし女性が心広く、人に親切で、謙虚で、そして夫に対して貞節かつ従順なら、彼女の息子たちは良い子になり、人生で成功できるだろう、と言われてきました。実際、功なり名を遂げた人のことを語るとき、「それは彼の母親の仕事だ」とか「彼のお母さんは苦勞したからね」となることが珍しくありません。

しかし、本当に、結婚生活の中での女性の良きふるまい、つまり、家事に対して熱心で、夫に対

して貞節かつ従順で、家族の誰に対してでも注2 優しく尽くすことは、彼女の子どもたちの運命に良い影響を与えるのでしょうか？ 反対に、意地悪でエゴイストで喧嘩好きで反抗的なお母さんの子どもは、悪い人間になり、人生の成功を望むことはできないのでしょうか？

＜母の苦勞が息子の未来をつくる＞。セネガルでは、この言葉は、特に女性の間で、今でも広く信じられているようです。実際に見聞きした範囲でも、女性たちは、しばしば、このように信じることで、たとえ結婚生活の中に様々な不満があったとしても、離婚を諦め、自身の幸せを見つけることができなかつた家庭に留まるのを選ぶようです。「息子の幸せのためなら、どんなことでも我慢できる！」というわけです。

そして、幸いなことには、息子たちもまた、この言葉を信じているか、少なくとも、気づき、感じているようです。それは、仕事を始めて最初にもらった給料は、そっくりそのままお母さんにわたす、というのが一般的なことからわかります。「お母さんは、長い間、私のために苦勞してくれたのだから、当然、これを受け取る権利があります。どうぞ受け取ってください」ということの表現なのです。勞苦の初穂を、勞苦した人に捧げる。なんと美しく、尊敬すべき行為でしょうか。

時代は確かに変わりました。現代のセネガルでは、女性たちが、自分たちの権利を守るために、女性解放、男女平等といった標語をかざし、まさにライオンのように戦っています。男性たちから、しじゅう、こうした権利を破られ、無視されても。そして、変化は確実に生まれています。政治の分野では、とりわけ2010年5月に可決した法律によって、選挙人名簿における男女の数は同数でなければならない、ということになりました。その結果、今日では、45%以上の重要なポストを女性が占めています。また、職業活動の多くの場でも、女性の進出と活躍には目覚ましいものがあります。これが女性解放のひとつの流れだとすると、セネガルは多くの先進国よりもはるかに先を行っていると言えます。

ところが、このような変化の時代においても、＜母の苦勞が息子の未来をつくる＞という、フェミニストたちによれば、＜女性を自分たちの支配下に置こうとして、男性たちが作りだしたものにすぎない＞考え方が、人々のメンタリティの中にしっかりと残っているというのは、不思議な気持ちになります。

ここで少し横道に逸れることをお許しください。

私は、社会に開放的な考えや意見を普及させることができるのは、教育ではないかと考えています。私の経験から言うと、セネガルで女性の権利の主張が始まったのは、1970～80年代、中学校や高等学校の教室の中からです。それは、主に、文学の授業のディスカッションをとおしてでした。当時、授業の大きな部分がディスカッションの形で行われていました。1年間のうちに、私たちはかなりの数の小説を勉強することになっていました。学年毎に決められた本の数によって2人から4人ほどのグループに分かれ、本を分担し、読んで、話し合います。その後、この本の中ではどんなテ

テーマが扱われているか、そのテーマに対する著者の立場は何か、また、彼ら自身の立場はどうかを、皆の前で発表します。すると、他の生徒から、賛成、反対、補足といった様々な意見が出て、ディスカッションとなります。それはしばしば長引きますが、特に議論が沸騰するのは、テーマが、アフリカの植民地化や非植民地化、奴隷制度、そして家族についてであるときです。最後のテーマは、当然、社会の中での男性と女性の役割の問題に発展します。そうになると、多くの場合、男生徒と女生徒が対立し、ディスカッションはいつそう熱をおび、教師が、いわば時計の針をもとに戻すように、介入してくるということになります。これらのディスカッションのメリットは、社会の中に打ち立てられた常識、それまで自然で当たり前だと思っていたものについて、自分たちの頭で、改めて考えるようになったことです。

現在、この世代は、こういった討論を、ラジオやテレビや新聞などのメディアをとおして、また政治政策を決める課程で行っています。そして、そこにはたくさんの女性の声が響いています。それでもなお、やらなければならないことは残っています。なぜなら、セネガルの識字率は54%でしかないのです、すべての人々の前に自らの考えを表明する場が開かれているとは言えないからです。

さて、今回のテーマ、**<母の苦勞が息子の未来をつくる>**に戻りましょう。思うに、かつてのセネガル女性はこの言葉を文字どおりに信じていました。ですが、現代の女性は、信じるにしても、もっと広い意味でとらえたいと思っているのではないのでしょうか？広い意味では、<母>は<両親>、<息子>は<男女を問わない子ども>で、子どものために苦勞する両親は、子どもに幸せな未来を保証することができる、ということになります。一方、この言葉の中で<父>や<娘>でなく<母>と<息子>が使われているのは、伝統の反映であると思われます。つまり、伝統的なアフリカ社会では、子どもたちがまだ小さいうちは、母親が彼らの食と健康と基礎的な教育を担当します。その後、息子は父親のそばで一人前の男性となるための様々なことがらを学び、娘は女性の仕事を学ぶために母親のもとに留まります。やがて、息子は、父親に代わって、家族の永続性と繁栄を担うことになります。一方、娘は、結婚によって家族のもとを去るものとされていたわけです。

しかし、女性の意識が変わり、子どもたちのそれとは独立した人生を送ることもできるようになった現在、何が変わったのでしょうか？ 実は何も変わらない、変わっていないのではないかと思います。21世紀の自由な女性も、かつての女性と同じように、子どもたちのために離婚を諦めたり、逆に離婚を選択したり、子どもたちを教育するために自らを犠牲にして働いたりしています。それは途上国でも先進国でも同じで、たとえばフランスでは、85%の片親世帯が母親によって保たれています。母は、世界中どこでも、子どもの未来のために、自らの身をいとわず、努力し、苦勞を続けているのです。その中で、この言葉、**<母の苦勞が息子の未来をつくる>**は、女性たちが、自らの努力、苦勞、また犠牲に意味を与えるために信じようとしているのだ、と言えるのかもしれませんが。

それにしても、社会が大きく変わったのにもかかわらず、母は、どうして母であり続けるのでしょうか？それは、すべての女性の中には、生まれつき、人を愛し、人を守り、人を育むという、驚

くべき能力が備わっているからです。< maternité 母性>と呼ばれるこの力によって、母は、子どもたちのためならば、喜んで自らを犠牲にすることができるわけです。また、母としてだけでなく、一般に女性が人を愛するときの心の奥底には、無意識のうちにも、この母性が豊かに溢れ出ているのではないのでしょうか。

世界中の女性たち、あなた方は素晴らしい。

人間社会の中で、あなた方のみが、真の人間と呼べる存在だと思います。

私は、花束と共に、あなた方に心からの敬意を捧げます。

注 1 <木の下の猿>は、セネガルのことわざです。「木の下に猿がいたら、その猿は、木から降りてきたところか、これから登ろうとしているのか、どちらかだ」ということから、物事にはふたつの可能性しかない、という意味になりますが、通常、ネガティブなニュアンスを含んで使われます。

グリオとは、もともと、世の中のできごとを記憶して父から息子に伝える、世襲制の記録者、また語り部でした。文字を用いていなかった時代には、その知識量の豊富さから、しばしば、王様の助言者や外交官の役割も果たしました。そこから派生して、今ではミュージシャンや、時には役者となる人々がいます。セネガルを代表する音楽家、ユッサー・ンドゥールも、グリオの家系の出身です。

しかし、現在の多くのグリオは、正直に働く代わりに、自身もほとんど知らない誰かを、あれこれ言葉をひねり出して誉めそやすことで、その人からお金を引き出す、という、詐欺まがいの行為で暮らしています。

私は、この女性が誰のことを誉めていたのか、また、どういう状況で話していたのかはわかりませんが、褒めていた人から既にたくさんのお金をもらっていたのか、これからもらおうとしているのか、どちらかではない、つまり、<木の下の猿>と思ったわけです。

注 2 伝統的な家は、単に、夫婦とその子どもたちだけで構成されているものではありません。叔父、叔母、いとこ、義理の父母、祖父母などが共に暮らす、大家族であるのが普通です。

バ オ バ ブ の 会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35

TEL&FAX 045-373-0059 HP:<http://the-baobab.org>

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no.1523673

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215